

第8回 剪定実習

近江八幡小学校

平成30年 11月13日 (火)

1. 学校の剪定。

- 観察樹…名前、花、実など観察します。～樹形が大事。
- ・ 樹種が多く、実習に最適です。
- ・ さわつていいものをどうさわるか。～赤松弱って5年待ちます。
- ・ 時間、道具の管理に細心の注意を。～生徒さんがおられます。

2. 34期生のOBが継続して剪定しておられます。

- ・ サポート隊に加え、34期OBにも指導頂きました。

北村先生より、本日実習の注意点



校長先生よりご挨拶



教頭先生よりご挨拶

創立145年の歴史ある学校 ネオルネッサンス調校舎



楠の剪定～樹形を考えて



登り易く枝を抜く



～もろく弱いので注意



キンモクセイの樹形を整える



剪定後：メリハリ付けて



ネズミモチ 隣と上部が被っている



樹形を考えて～大きくするか、小さくするか



立ち枝を取る



究極の選択～太い枝を切る



トップジンMで処置



サルスベリ～何を楽しむか～立枝を取る



テッポウムシ被害。1周やられると枯れる。



樹形を 考える



中芽は夏まで。今は枯れる



34期OB安全帯着用で横の高木を剪定

第1班

取組メンバー



取組み前



取組み中



取組み後



第2班



第3班



第4班

取組メンバー



取組み前



取組み中



取組み後



テーマ

- (さつき、山茶花、モミジ)
- 前庭の、さつきの剪定作業指示があった。
- 現状の外形は、四角く刈り取られているが、もう少し形を変えて刈りこむように言われた。
- 角を取ることで花の見方も変わってくるのではないかと思われた。
- ただ単に、角をとるだけではなく大きく斜めに刈り込むことで、人の見る目も違ってくると思われた。
- 花が咲いた時も広く大きな面積の花が見られるように感じた。
- 石碑もよく見えるように通路を広げた。

テーマ 1 正門前

- 写真右手の松と紅葉は今手をつけず。紅葉はこのままでよい。
- 剪定したのはツツジ、マキ、グミ、サンシュユ、マンリョウ、ハナゾネフクバネ、ウツギ、シュロ。
- 北村先生コメント：ツツジは芽を切ると花ができないので、暴れている箇所だけ、根本深くからはずす。一人生えのシャリンバイが混じっていたが根本からはずす。
- サンシュユについて、光のあたらない北側の枝を参考にして剪定。
- シュロについて、垂れている枝はすべてはずす。(脚立が届く範囲しかできなかった)
- 2 校舎前**
- 北村先生コメント：木がすべてまっすぐに伸びていると色気がない。そこで、剪定時には枝を生かして懐(ふところ)をつくるようにする。
- サルスベリ2本の内1本の根本がテッポウムシにやられていた。虫を見つけて針金などで殺す。外周一回り食い荒らされると樹は枯れる。(その他北村先生コメント) 樹の体力を考える。
- 松等3年先の姿を考慮して今回あえて剪定せずというのがある。

テーマ

- 校舎の前庭で各島毎に樹種が異なり、築150年の校舎と調和しています。
- 手間のかかる松が随所に配置されていますが、担当のところが植の高木、手間のかかる松、茂ったクロガネモチ等であり、他の班より遅れる進行となり、北村先生、OBに作業いただきました。
- 34期OBが植の高木を剪定いただきました。
- 先生からは、ネズミモチの樹形を整える～枝を抜く～最終、究極の選択で太い幹を切り樹形を整える指導をうけました。
- 34期OBの方々も、八幡小学校剪定終了後に奥村邸訪問をお願いした関係で、剪定補助(というより主役でした。)から、駐車場案内、奥村邸案内と1日大変お世話になりました。ありがとうございました。

テーマ

- 4班が担当したのは、正門から正面玄関のロータリーで黒松 赤松 五葉松と植栽されており 北村先生より直接ご指導頂けると楽しみにしたのですが、指導頂けたのはサポート隊の先輩でしたが、直接 手元で見本の剪定で指導いただきました。
- 黒松:3本芽の中央の長い芽を切り取り古葉を取り除く
- 赤松:木が弱っているため養生中。徒長の長い芽と茶色の古葉の除去
- 五葉松:黒松と同様に中央の芽を切り取り 茶色の古葉除去
- あと たいへん勉強になったのは 高木の剪定の時の安全確保で安全帯や脚立の転倒防止用のロープを事前準備するが一番大切当然サポート隊の先輩は準備されていました